

# サハリン事務所現地レポート

2019年3月

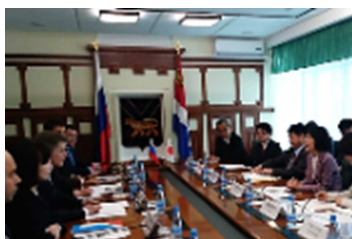
## (件名) 北海道代表団のウラジオストク訪問

報告者：所長 佐藤 知至

3月17日(日)～19日(火)の日程で、高橋知事ほか北海道代表団が沿海地方ウラジオストク市を訪問したので報告する。

北海道と沿海地方を含む極東3地域との間には1992年に協カプログラムが締結され、昨年7月にはその6期目に更新されたところであり、18日(月)に行われた両地域の知事会談では、本プログラムに基づく交流を更に進めていくことで意見が一致した。また、高橋知事からは昨年12月に就航した新千歳ーウラジオの直行便を活用した交流の深化について、コジャミヤコ知事からは農業や水産、医療などの分野での交流拡大について提案がなされたほか、今春に北海道を訪問し、文化交流やビジネスマッチングのイベントを行いたいとの意向が示された。同日の午後には、沿海地方の観光関係企業やブロッガー、カメラマンなどとの懇談会も開催。空港戦略推進監から北海道観光の魅力や観光振興施策についてプレゼンテーションを行った後、活発な意見交換がなされ、現地関係者からはロシア語での観光情報発信の充実やストーリー性のある観光ルートづくりなどの提案が出された。

沿海地方は、約200万人と極東で最多の人口を誇り、電子ビザの導入を契機に「最も身近な西洋都市」として、日本からの観光客も増加している。また、シベリア鉄道の発着点であり、極東の主要港であるヴォストーチヌィ港やウラジオストク港を抱える物流の拠点ともなっている。昨年12月には極東連邦管区の首都がハバロフスクから移転され、名実ともに極東の中心となっており、今後も両地域の交流拡大の一助となるよう、事務所としても取組を進めていく。



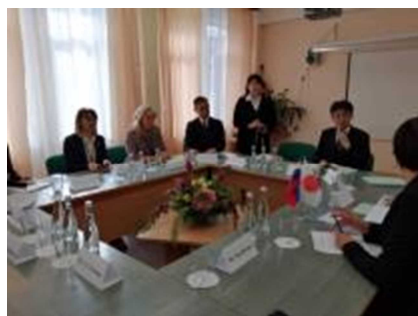
## (件名) 佐藤教育長のサンクトペテルブルク市訪問

報告者：主査 阿部 大祐

昨年5月、高橋知事がペテルブルク市(以降、サンクト市)では、を訪問し、地域間交流を行っていくことで一致し、その後、具体的な取り組みを記したロードマップが策定されそのなかで、同年8月、札幌でのミハイロフスキー劇場のバレエ団の公演など大規模な事業を行ってきた。今般、この枠組みにおいて、教育長ほか訪問団がサンクト市を訪問、教育・文化関係の交流が行われその中の一つである「人形浄瑠璃」について報告する。

道内の人形浄瑠璃劇団「あしり座」が、18世紀後半、伊勢の回船船頭・大黒屋光太夫ほか乗組員17名が会場遭難し漂流、アリューシャン列島に漂着後、イルクーツクでのキリル・ラックスマンとの出会いを経て、ペテルブルクでエカテリーナ2世に謁見し帰国許可を得て日本に戻ってきたという実話をモチーフにし、「大黒屋高太夫ロシア漂流記」として劇を作り上げた。当時の日本とロシアを取り巻く国際関係や人間の葛藤、不屈の精神を描いた壮大なストーリーであり、両国を繋ぐ物語としてぜひとも市民に知ってほしいものである。

3月28日のマルコフ副知事との会談では、本浄瑠璃公演の映像を投影して説明を行い、サンクト市側の協力を確認できた。また、3月29日の飯島・在サンクトペテルブルク総領事との面談においても、総領事館主催の行事内でのプロモーション活動や公演実施に向けた段取りや留意すべき点について打合せを行えた。今後、本公演実施に向けて具体的な公演場所の選定や費用の工面などの課題に取り組むことになるが、サンクト市や関係機関との協力と調整により実現したいと思う



583番学校訪問



マルコフ副知事との面談



グレゴリエフ委員長公式夕食会